

令和 7 年度
社会福祉法人大五京
i-保育園
年間教育保育サービス実績報告書
(事業報告書)

	目標		取り組み状況(評価)	次期、次年度への課題
①	改築を行う中で、子どもの安全性を最優先し、機能的な環境に整備する。	前期	工事の日程、作業箇所、内容の詳細を把握し、事前に保育上の問題点のクリア方法を導き出し環境を整えたことで、この半年間、工事によるけがや苦情などは発生していない。	工事の後半に入り、職員、子どもともに慣れてきている部分がある。しかし課題はそのphaseごとに変化している。常に前もっての確認と、安全性についての情報の共有を継続していく。
		後期	phaseごとに変化している状況を把握し、常に前もっての確認と、安全性についての情報の共有を継続していく。	工期内に終了せず、修繕箇所が多々ある状態で新年度を迎えることとなった。安全に保育を行うためにも、各部屋ごとに入念に確認作業を行い続ける。
②	人間性の向上(向学心・研究心・人間性向上)を図る中で、職員一人一人の強みは極める方策を、弱みは解消へ実践する事によって、園の発展につなげる。	前期	「自分の弱みは何か」を知るために、その事象が起きているタイミングできちんと伝え、本人が自覚しているかを確認することで再発の防止に繋げている。	習慣や習性は中々抜けにくい、人から指摘されることで振り返ることができる。その繰り返しを積み重ねることで、自らが気付けるようになってほしい。
		後期	個々との面談を繰り返し、その都度アドバイスを伝え続けてきた。小さいながらも気を付ける習慣がついてきているように思う。	新年度の担任発表と共に、個別面談を行い、「自分自身が変わるチャンス」という事を管理職と話し合い、共有をしながら新年度を迎え、継続して弱み解消へと繋げていきたい。
③		前期		
		後期		
施設長コメント	令和7年度は『改築』の1年という事で、遊戯室を仮設保育室として活用しながらの保育。また、園庭も仮設のトイレや休憩室・資材置き場となった為、一切園庭が使用できない状態。また、合計6回の引っ越しもあり、お子様の育ちとして、『工事があったから育たなかった』という事にならない様、今まで取り組んでいなかった外部(障がい者施設でのいもほり・ケアハウスはごろもとの交流)施設との交流を増やし、違った経験ができるよう工夫をした。工事が9phaseに分けて行われたが、その都度当降園ルートが変わったり、日々の中でも突発的にルート変更をしなければならなかったりと、コドモンを活用しての事前に保護者様にお知らせをすることで、トラブルを未然に防ぐようにした。引っ越しも1回につき2日間かかるため、保育士の休日出勤もあり、保育士の協力なしでは成立しなかった。よく頑張ってくれた。子ども・保護者の安全を第一に考えた1年だった為、職員の人間性の向上については、やり切るところまで余裕がない状況だった。その為、来年度は目標の視点をもう少し狭め、具体的に目標持つことで、取り組みやすくなる様にしていきたい。			